Case1　国際理解交流会

英語が話せる日本人参加者も多く、メイン会話が英語でなされる場面では、自分が置いていかれる感じがしました。外国の方はそれを日々感じているのだと身をもって知りました

話す前は「文化による意見の違いがあるだろう」という思い込みがありました。でも、日本の慣習でこれっておかしいよね、と感じることは同じでした

話を聞いて気づいた
を家族や友人など
巻き込んでいきたい

普段
視野
どう

Case 2　障がい理解交流会

子どもがいることや障がいがあることが社会参画のハードルになっているのではなく、個人の状況への配慮がないことがハードル、つまり障がいなんだと感じました

障がいと一括りにはできず、それぞれ欲しいサポートは違う。ひとりで行動したい時もあると聞いて、手伝いたい気持ちが押し付けにならないよう、イエスもノーも言いやすい声がけを工夫したいと思いました

Case3　世代間理解交流会

人生の選択肢が増え、価値
していく中で、年長者がいう
ライフデザインに
という結論が得

先々を考える時に「家族の誰かが元気ではない可能性」を考えがちだけれど、それが大学生には新鮮だったらしい。逆に彼らの話を聞くことで「もっと楽天的に考えてもいいのかな」と思えました